

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

「町民の皆様、いつもお世話になっております」

電話 0865-64-7212

町民の皆様には、教育行政の推進にあたりまして、ご理解とご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。本年度は、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことにより制限がなくなり、コロナ禍以前のように、様々な事業を実施することができました。町民の皆様方のご協力により、参加いただいた方の笑顔や元気な姿を拝見でき、本当にありがたく思います。また、事業の中には、内容の見直しを行って実施したものもあります。これからも、皆様のご意見をお聞きしながら、よりよい事業になるように実施していきたいと考えております。

また、幼稚園、小学校、中学校においても、多くの保護者の方・地域の方にご来園・ご来校いただきました。子どもたちの元気な姿や頑張りを、皆様に見ていただけることは、子どもたちにとって大きな励みとなります。これからも、開かれた学校・園づくりに取り組んで参ります。

本紙は、今年度行った教育委員会や学校・園の事業の一端をお知らせいたします。紙面の関係で掲載できませんでしたが、文化ホール事業として、夏休み子ども劇場や海上自衛隊のコンサートなども、多くの観覧者にご来場いただいて開催できております。これからも、教育委員会の職員一同が一丸となって、町民の方をはじめ、お越しいただく全てのお客様に、笑顔でお帰りいただけるような催し物を企画していきたいと思えます。ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(文責：事務局長 村山 弘美)

コミュニティ・スクールを推進しています

町教育委員会は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度のある学校・園）と地域学校協働活動（地域の方による子どもの支援、見守りなど）を一体的に推進しています。

コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めています。

(文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治)



紙ヒコーキ大会
里庄西幼小学校運営協議会



チャレンジ・ハイキング丁山
里庄東幼小学校運営協議会



中学生だっぴ（立志の会）
里庄中学校運営協議会

～ ふるさとの文化を学んでいます ～

里ちゃんチャレンジワールドー大原焼に挑戦ー（中央公民館）

10月29日（日）、11月3日（金）、大原焼プロジェクトの支援をいただき、地域文化の素晴らしさを知り、ふるさとを愛でる心を養うことを目的に体験活動「大原焼に挑戦」を実施しました。

参加した児童からは、「400年前、大原焼を始めた人は、本当に知恵がすごいな。」「大原焼の歴史を知ることができ、よい経験だなと感じました。実物も作れて、大原焼の良さも感じました。」などの感想がありました。1月24日（水）～2月3日（土）、町立図書館において「大原焼に挑戦」作品展を開催しました。10月、11月に行われた体験活動に参加した子どもたちが制作した、土人形と活動の様子を写真とパネルで紹介しました。

あわせて、大原焼プロジェクトによる「大原焼と山神社」のパネル展が行われました。町の主要産業であった大原焼のすばらしさを地域の方々に知っていただきました。



施釉（釉薬を塗りました）



土人形には絵具とニスを塗りました



図書館で作品展を行いました

大原焼を体験しました（東・西小学校）

東・西小学校でも、総合的な学習や図画工作科の学習時間で、大原焼について大原焼プロジェクトの皆様にご支援いただき、作品を制作し、ふるさとの伝統文化を学ぶことができました。



「大原焼のはじまり」講義



成型「マグカップの制作」



窯出を待つ作品

（文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治）

わくわく科学ランド&木のおもちゃ広場@里庄

12月16日(土)、里庄中学校体育館において町内の児童・幼児と保護者、ボランティアの約100名が集い、科学の不思議を体験しました。参加した児童からは、「キラキラしゃぼん玉が前よりうまく作れた。中学生のお姉ちゃんたちの教え方もやさしかった。」「木のジャングルジムは、大工さんになった気分が楽しかった。」など、ボランティアスタッフからは「いろいろな人にかかわることができ、楽しかった。」「分かってもらえたり、喜んでもらえたりしてうれしかった。」など感想をいただきました。

また、保護者からは、「親子そろって楽しい時間を過ごさせてもらいました。楽しむだけでなく、きちんと片付けまでさせて、遊び方の基本を示してください、嬉しかったです。ボランティアの小・中学生がとてもすてきで、里庄で子育てできる幸せを再認識しました。」との感想をいただきました。

(文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治)



キラキラしゃぼん玉
「くるくるレインボー」



木のジャングルジム
「くむんだー」



参加者全員で片付け

町民運動会の再開

今年度は昨年度以上にスポーツ事業を開催することができました。その中でも6年ぶりの開催となった里庄町民スポーツ交流大会では、各分館をはじめ、町民の方が多数参加し、大いに盛り上がりました。従来は「厚生体育大会」という名称で実施しておりましたが、町民の交流を図ることを目的とし、「里庄町民スポーツ交流大会」と名称を新たにしました。新種目を取り入れたり、時間短縮などを行ったりし、運営方法も見直して大会を開催しました。久しぶりの運動会に、参加者たちは笑顔で声を掛け合いながら、協力して種目に臨んでいました。特に大会の最後を飾る「男女混合リレー」では手に汗握る白熱したレースが展開され、会場全体から大歓声が沸き起こりました。大会を終えた参加者たちからは「久しぶりに開催されて嬉しかった。町民が揃って参加し交流を深めることができるので、今後も続けてほしい。」といった声がありました。

町民の皆様のご協力のおかげで再開することができました。「里庄町民スポーツ交流大会」を引き継いでいくために、様々なご意見を参考にしながら、今後も運営を行ってまいります。

(文責：井上 仁)



男女混合リレーの様子

令和5年度 里庄町立志の会

2月6日(火)、里庄中学校2年生117名を対象に「立志の会」が行われました。

今年度は、NPO法人だっぴの協力により、中学生が多世代の人との対話を通して、お互いの経験や価値観などを共有し、語り合いながら将来について考えるプログラム「中学生だっぴ」を行いました。これは、対話の中での自己表現を通して自信を高めるとともに、多様な生き方や考え方に触れることで、新しい価値観に出会い、人生の選択肢を広げることをねらいとしています。

キャストとして高校生・大学生と、地域からは、里庄中学校運営協議会が参加メンバーを募り、大勢の方が参加してくださいました。生徒たちと高校生・大学生・地域の大人が6～7人程度のグループとなり「10年後、どんな自分になっていたか?」、「描いた未来に近づくために、これからやりたいことは?」など様々なテーマについて意見を交わしました。

参加した生徒からは、「いろいろな人の意見を聞くことで自分の人生をより良いものにできそう。」、「これからたくさんすることに挑戦し、失敗しても成功しても、挑戦する機会をくれた人への感謝の気持ちを忘れないようにしたい。」、「まずは高校へ入学するために勉強を頑張ったり、将来の自分を思い描いたりしていきたい。」などの感想が聞かれ、中学生たちがこれから大人になるまでの過ごし方や将来について考える、貴重な時間となりました。
(文責：山本 華代)



「立志の会」の様子



「中学生だっぴ」の様子

「第43回里庄町体力づくりふれあいマラソン大会」開催

2月18日(日)に晴天の中、第43回里庄町体力づくりふれあいマラソン大会が5年ぶりに開催され、子どもから大人まで幅広い年齢層の参加者が会場に集まりました。参加者はスタートの合図とともに勢いよく飛び出し、町内約3.1kmのコースを軽快な走りでゴールしました。スタートしてからあっという間にゴールしてくる参加者たちに、観覧者は驚きの表情を浮かべていました。親子の部では、親と子が仲良くコースを走り、最後は手をつないでゴールしました。子どもが親を引っ張ってゴールする姿に思わず笑みがこぼれました。

コロナ禍で、ここ数年はスポーツ行事を中止にせざるを得ない状況でしたが、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことで、多くの人が集まるマラソン大会や、町民スポーツ交流大会を再開することができました。今後も安全に配慮しながら、参加して下さる方々に楽しんでいただけるように努力してまいります。
(文責：井上 仁)



勢いよくスタートする選手たち